



発行責任者 齋藤隆靖 編集責任者 滝沢寿隆

2024年1月15日号

平和 働き、生活できる

人権 労働条件を獲得しよう

環境

ホームページ



メール

<http://unionpeace.main.jp/>info@unionpeace.main.jp

ユニオンネット平和センター（略称：ユニオン平和）

〒101-0048 東京都千代田区神田司町 2-15-9 武蔵野ビル 2F 労働相談室気付

TEL 070-6576-2071

FAX 03-5577-7263

労働者の奮起で政治を変え、民主主義を守ろう

2024年を迎え新春のご挨拶を申し上げます。そんな喜びと期待を望む元日の夕方、恐れていた地震最大震度7の能登半島大震災が発生した。改めて日本は地震列島だと実感させられます。震災当初から被害の全容の情報が見えず、行方不明者数等の安否も明らかにされませんでした。火災などの被害も客観情報が弱く届きません。しかし、日を追って、被害の大きさが報道映像によって明らかにされました。家屋の倒壊、火災の凄さ、津波は波柱を立て海岸を襲いました。映像で事実を知り、生死を分ける72時間経過しても行方不明者の存在さえ把握ができないでいます。家屋の下敷きから救い出せない被災者に胸が痛みます。インフラの破壊で道路の寸断、水とトイレ不足で衛生の悪化が追い打ちをかけています。現地からは「見捨てられたんやろうか」の悲痛の声が聞こえます。被災地の惨状は「銃弾と爆撃」のない、イスラエルによるガザ攻撃の市街地と変わりません。

翌日の2日、18時過ぎ、羽田空港C滑走路でのJAL機と海保機追突事故は大惨事を招くところだった。「奇跡の18分」と言われる客室乗務員の機転などにより、乗客全員が救出されました。

4日に岸田首相の年頭挨拶があり、「春闘で賃上げをする」「景気回復をする」等々、いつもの通り一遍のコメントを羅列しました。これでは目の前の課題にある実質賃金の伸び、デフレ経済打破等はできません。

岸田年頭挨拶の記者会見で、指名されず声を上げたフリー記者がいました。「原発に対して質問させて下さい。地震から3日も経過して、総理が原発について一つもコメントをしないのは異常です。原発の再稼働を諦めるべきではありませんか。地震大国の日本で、原発の再稼働は無理だと、今回わかったのではありませんか。教えてください。聞く力はどこに行ったんですか」。

記者会見で明らかになったことがあります「原発再稼働の是非」です。震源地に近い志賀原発が稼働中のままで今回の地震が発生していたら、最悪の場合は2011年の福島第一のような大事故が再び起きていた可能性があります。大事故を免れている最大の要因は、「原発が稼働していなかったから」です。この1点だけを見ても、地震大国の日本で原発再稼働を目指す政府の方針は間違いであると素直に認めるべきです。

次に被災地支援の遅れがありました。地震当日の1日夜の段階で、台湾は160人規模の救助隊の派遣準備を完了させて待機したが、日本の外務省から「支援のニーズが無い」ことを確認したとして、3日に待機を解除させた台湾メディアが報道しました。しかし実際には、家屋の下敷きになったままの被災者がまだ大勢いる中、地震発生から72時間が経過しています。こうしたチグハグした対応の原因を総理はどのように考えているのか。今も助けを待つ被災者に対して、説明を求めたが、岸田首相は背を向けるだけで答えたといえません。これらをもみても、労働者の奮起がなければ、政治は変えられないし、憲法も守れません。平和と民主主義を守るためにユニオンネット平和センターが頑張るときです。

2024年1月

事務局次長 宮川敏一

平和・人権・環境



11.21 国会正門前で 思ったこと 沖縄

この1年余の沖縄は、これまで語られてきた沖縄戦後史の次元を超える事態に移行している。

第1に、辺野古新基地建設が、国による強制代執行という重大局面を迎えようとしていること。

11月初め、わたしは福岡高裁那覇支部裁判長宛に、短いメッセージを書いたハガキを出した。

「裁判長殿 あなたに見えていますか！

万年を単位として形成され、大浦湾の生物多様性を育ててきた“自然のゆりかご”軟弱地盤に打ち込まれる7万本を超える砂杭が…。

完成した基地に、命を奪うために飛び交う、戦



インビ岳沿岸監視レーダー

闘機・軍用機が…。」

その後、12月20日には沖縄県敗訴の判決が出された。

言うまでもなく、代執行の強行で「軟弱地盤」や、「南部遺骨土砂問題」が消えてなくなるわけではない。沖縄県の主張の正しさは、今後も形を変えて明らかになるはず。それを顕在化させるのは、「絶対にあきらめない」現場の運動であり、知事を支える、沖縄と全国の民意だ。

第2に、戦場化を前提とした「南西諸島」への、自衛隊配備・ミサイル基地化が急速に進んでいること。この日、国会前では、種子島・奄美大島・宮古島・石垣島・与那国島の皆さんが上京し現状を訴えた（詳細はYouTube映像で）。



与那国馬

この12月、10年ぶりに与那国島を訪ねた。

人口減を食い止めるためにと自衛隊が誘致されたことを端緒に、その後はミサイル基地・軍港の新設・軍事利用のための空港拡張など、次々と基地機能拡張が計画されている。自衛隊誘致で島が活性化し安全になるはずが、耕作放棄地は広がり島を離れる希望を持つ住民には支援基金がつくられるまでになっている。軍事優先のあり方は、かくもいびつな社会を作り出す。

第3に、「再び沖縄を戦場にさせない」ために、様々な努力が始まっていること。



「オール沖縄会議」や辺野古・安和・塩川現地での阻止行動はもとより、新たな努力として、この日沖縄では、玉城知事も参加して「平和大集会」が開かれた。

「争うよりも愛しなさい」という印象的な呼びかけ。歌手のRude αさんが、沖縄戦の時代を語る祖母の言葉を歌詞にした。オバアから孫のRude αさんへ、3世代をつないだ沖縄戦を伝える言葉をかみしめる。



工事船ひしめく大浦湾

「軍隊は住民を守らない」それは沖縄戦の最大の教訓だった。「本土」側に流布する「私たちの享受しているの平和と繁栄は、命を落とされた方々の尊い犠牲と苦難の歴史の上にあります」という曖昧な戦争観をどう克服するか。ガザでは、いまこの時も、イスラエルによるジェノサイドといえる戦争が続いている。戦争をさせないこと以外に、住民を守る方法はない。

大軍拡と9条改憲に抗う、そして「再び、戦争をさせない責任」「沖縄を、日本を戦場にさせない責任」は、今を生きる私たちにある。

毛利 孝雄（沖縄大学地域研究所特別研究員・「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会）

お互いさまニュースより転載

平和・人権・環境



首相官邸前で「沖縄の民意と地方自治を踏みしめる代執行を許さない！ 12・20 官邸前行動」を開いた。

集会は、「沖縄のアメリカ軍普天間基地の



首相官邸前

移設先になっている名護市辺野古沖の地盤の改良工事をめぐり、

国が移設に反対する沖縄県に代わって工事を承認する「代執行」を起こした裁判が、福岡高裁沖縄支部であり、12月20日、福岡高等裁判所那覇支部で「敗訴」の不当判決が出され、判断を3日以内に出せと。

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設計画をめぐり、国が新たな区域の埋め立てに必要な設計変更を県に代わって承認するための「代執行訴訟」で、福岡高裁那覇支部（三浦隆志裁判長）は20日、国の訴えを認め、県に承認するよう命じる判決を出した。

私たちは「玉城デニー知事を支持します」「辺野古新基地断念を」の声を上げた。首相官邸前集会は、18時30分から行われ、開会と共に「高裁の不当判決」に代執行を許さないと抗議の声を上げた。

参加者は250名であった。



首相官邸前



憲法改悪を許さない #総がかり署名街宣が12/21(木)18:00～新宿駅東南口で行われた。

国会は裏金（ウラキン）問題で自民党の支持率は一気に急降下した。野党第一党の立憲民主党が迫る勢いで大逆転の気運も見えてきた。岸田内閣支持率も20%を割る調査も出ている。



菱山さん

1988年8月の未公開株を自民党議員にばらまいたリクルート汚職事件で40%台の支持率があった当時の竹下内閣は、一気に10%割れの7%まで下降して退陣に追い込まれた。当時を彷彿させる事態になった。

橋本さんの司会者で開会し、6人のリレートークが始まりました。小林さん（1000人委員会）は「安心して暮らせる社会をつくりましょう。争いで犠牲になるのは、いつも市民と子どもたちです。その歴史から日本国憲法ができました。



リレートーク

私は教壇に立ち、子どもたちの命を大切に努力してきました。軍事力より話し合いです。戦争放棄の憲法を強く強く守りましょう。」。トークは他に菱山南帆子さん、高田健さんなどがされ、参加者は35名であった。次回は1月22日。



リレートーク



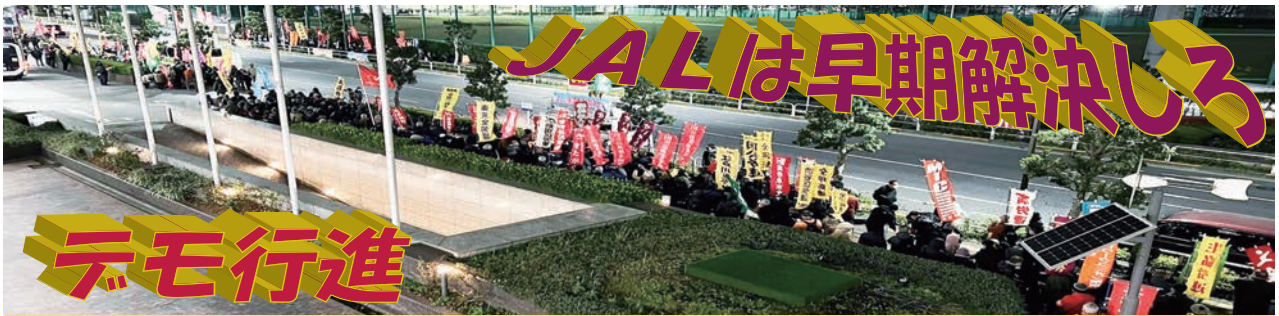
12.21 JAL 争議の早期全面解決 本社大包围行動



この冬一番の冷え込みに負けず「JAL 争議の早期全面解決をめざす本社大包围行動」が、天王洲アイルにある JAL 本社前で開かれた。

集会は車上から客乗の山田純江さんが司会を進行した。主催者を代表して宮垣さんが挨拶をし、国会議員からは、立憲民主党の福田昭夫衆院議員が「24 人の国会議員で解決を進めるために超党派で代表をしています。

しっかり解決する気持ちでいます。何と 13 年前解雇して、4 回の ILO 勧告受けても勧告改善しない。けしからんと思います。頑張らしましょう。」と力強い支援の挨拶をされた。続く支援者は、東京清掃中央支部高野さんから、「解決するために連帯挨拶をします。JAL の解雇撤回は全て労働者に共有します。」



ユニオン平和に参加しましょう

ユニオン平和は、フォーラム平和・人権・環境に加盟しているユニオンの集合体です。平和・人権・環境に係わる諸課題の理論・情報・行動を発信していきます。

加入は、団体、サポーター会員として、個人単位での加入もお願いしています。

是非ご参加ください。

解雇撤回、早期解決頑張りましょう。」。

当該からは、山口宏弥委員長が、「今、都労委に申立てをしています。これまで超党派の国会議員の福田議員はじめ、そして研究者の皆さんのお力添えに心から感謝を申し上げます。JAL に対しては団交拒否、誠実交渉義務違反そして業務委託に関わる組合差別これら 3 点で申立てを行なっています。雇用について被解雇者を優先しないことを繰り返してきました。また管財人による不当労働行為、削減目標を超過しているにもかかわらず解雇をした。JAL の不当労働行為と被解雇者の採用をしてこなかった優先雇用をしないことに一括して休させよと都労委に申し入れています。皆さんの支援を力に頑張ります。」と決意を述べられた。



滝沢事務局長 金沢顧問

デモ行進

会費一年会費

団体：一口 1000円

個人：一口 1000円

※団体個人とも、可能な方は複数口お願いします。

※サポーター会員証を発行しています

平和・人権・環境

